

## 事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	生涯学習推進事業	コード	5103
-------	----------	-----	------

2 担当部課	部等 教育部	課等 生涯学習課	作成者 勝野 哲矢
--------	--------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち		
		政 策	生涯学習の推進	施 策	生涯学習の推進
		予算科目	生涯学習推進事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	市民と歩むまちづくり講座開催事業及び学びのおかやサポート事業を行い市民の生涯学習推進を図った。		
目的	対象者	市民全体	
	意 図	市民の生涯学習推進	

5 事業の実施内容	*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
	<p>○第6次岡谷市生涯学習推進計画の策定（5年間の計画期間）</p> <p>○「成長樹（期）子育て実践ポイント」活用事業 おかや子育て憲章具現化の取り組みとして、子育てのポイントを年齢期毎にまとめたパンフレット「成長樹（期）子育て実践ポイント」を活用するため、「配付」を行った。</p> <p>○市民とあゆむまちづくり講座開催事業（岡谷市職員出前講座） 市民の生涯学習活動をより一層推進するため、職員が地域へ講師として出向き、市政についての講座を開催した。・メニュー 8部門・96講座・実施件数76件・延べ2,526人</p> <p>○生涯学習人材バンク「ナビスタッフ」 地域の教育力を学校教育、社会教育、社会体育の場で活用するため登録の促進を図った。</p>		
前年度の課題への対応	ナビスタッフについては、実際利用している講師を把握するなど、利用方法を検討中。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 活動指標（指標名）	「市民と歩むまちづくり講座」開催件数				単位 件
	実績値	103	87	76	
	*指標の説明				
② 成果指標（指標名）	「市民と歩むまちづくり講座」参加者数				単位 人
	目標値	3,727	3,181	2,534	2,526
	実績値	3,181	2,534	2,526	
	達成度	85.4%	79.7%	99.7%	
	*指標の説明				
	*目標値の設定方法の説明				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	882,690	823,109	394,209	304,000
経常経費	882,690	823,109	394,209	304,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	4,000,000	4,000,000	4,800,000	4,800,000
正規職員の人数(人)	0.50	0.50	0.60	0.60
③ 合計コスト(①+②)	4,882,690	4,823,109	5,194,209	5,104,000
前年度比		98.8%	107.7%	98.3%
財源	4,882,690	4,823,109	5,194,209	5,104,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	47,405	55,438	68,345	
前年度比		116.9%	123.3%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 99.7%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 99.7%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 出前講座の内容に変化があまりない	
	(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容) ニーズを把握するため、実績報告の検証を実施する	
改善方法		
改善開始時期	令和2年4月～	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	--	---